

明日も元氣で来いよ！



まだまだ朝方の厳しい冷え込みに、春の訪れが待ち遠しい今日この頃です。

そんな中でも、近くのどんぐり公園では、「寒紅梅」がきれいな花を咲かせています。春は確実に近づいています。

さて、2月も残り少なくなり、いよいよ学年末というゴールが見えてきました。特に6年生は、卒業に向けて、カウントダウンの日々です。卒業式まで、登校するのは、18日となりました。残りの日々を大切に、いい思い出をつくってほしいと願っています。

日記「たくましく・・・」から



今日、テレビで東日本大震災のつなみで、子どもをなくしたお母さんの番組を見ました。べつべつの場所ににげて、しんでしまったそうです。日航きつい落事故で子どもだけが乗っていたお母さんも出ていました。見た後で、「明日も元氣で来いよ」の「さいごだと分かっていたなら」の詩を読みかえしました。お母さんがれいぞうこにはっています。明日が来るのはあたりまえじゃないので、まいにちを大切にしたいです。

(2月4日 3年Nくん)

「最後だとわかっていたなら」は、平成28年度の第25号で紹介した詩です。これは、アメリカ人の女性が、10歳の息子を亡くし、その悲しみの思いを綴った詩です。9.11同時多発テロの追悼集会で朗読され、大きな反

響を呼び、瞬く間に世界中に拡散されました。

(サンクチュアリ出版 作・ノーマ コーネット マレック／訳・佐川 瞳)

阪神大震災や東日本大震災などを通して、私が常に訴えてきたのは、「今ある あたりまえのような生活が、実は、当たり前ではなくて本当に有り難い事だ」ということです。このことを心に留めていてくれているNくんの気持ちがうれしいです。そして、Nくんがそう思ってくれたのは、お母さんが、冷蔵庫に詩をはってくださっていたからです。ありがとうございます。

「あれっ？」

今日はお父さんが「明日も元氣で・・・」にのっている「たくましく・・・」を見て、「〇〇もこれくらいの文章が書ければいいのにな」と言いました。どんな文章か読んでみると、そこにはぼくが書いた文章がそのまま書かれていて、下にK君と書いてありました。お父さんに言うと、とてもおどろいていました。「明日も元氣で来いよ」にのってとてもうれしいです。

(2月6日 5年Kくん)

これは、2月2日第23号で紹介したKくんの「たくましく・・・」にまつわる楽しいエピソードです。この時のお父さんやK君の表情が目に浮かびます。「明日も元氣で・・・」が家庭での話題となって、家族の会話が弾んでいる、何ともうれしいことです。

紹介した2つの「たくましく・・」は、どちらも「明日も・・・」の内容を家族で受け止めていただいている事例です。マザーテレサの言葉に「人にとって一番の不幸は、人から必要とされないこと」があります。この意味の裏を返せば、「人から必要とされること。人に受け止めてもらえることは、一番の幸せ」ということになります。紹介した「たくましく・・・」で、私は、一番の幸せを味わいました。ありがとうございました。